

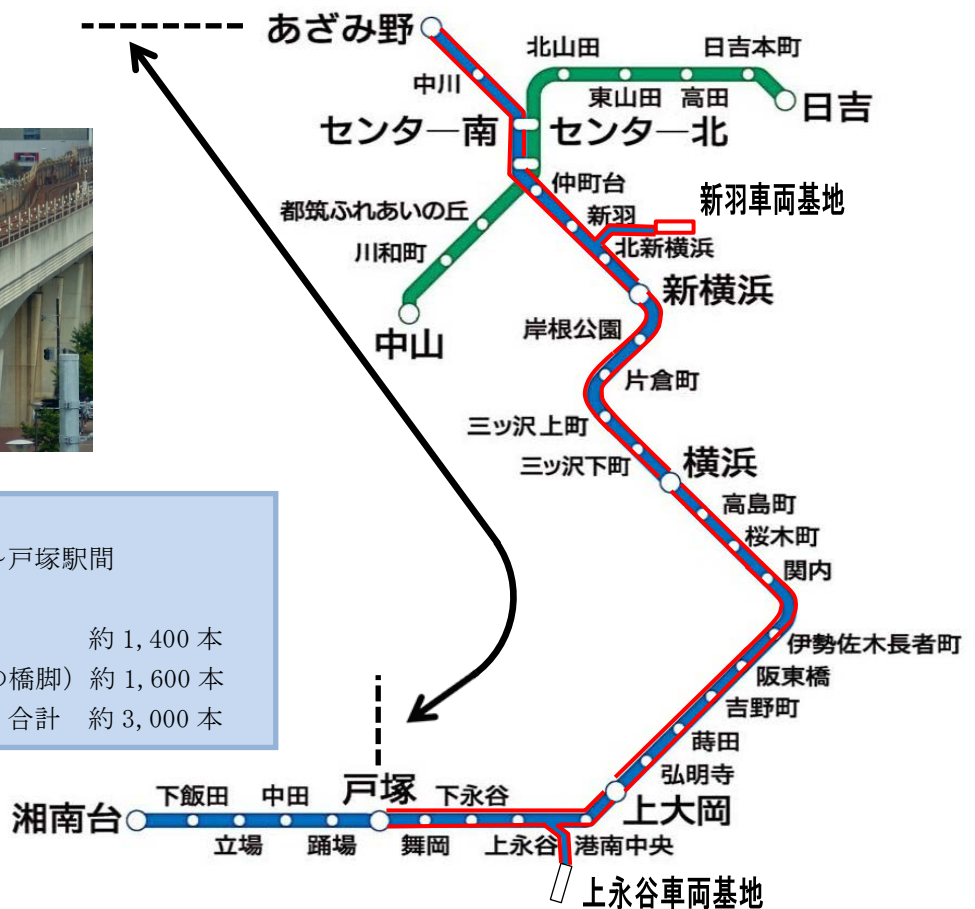
大規模地震発生時の早期運行再開をめざし、さらなる耐震補強工事を本格化します！

交通局では、「災害に強く、事故のない市営交通」をめざし、地下鉄施設の更新・改良等を行っています。

平成 25 年 3 月の国の告示で、市営地下鉄は首都圏直下地震及び南海トラフ地震の大きな揺れが想定される地域内にある鉄道に該当しております。また、同年 4 月には国から、大規模地震の被害状況や施設の重要性を考慮のうえ、引き続き必要な耐震補強を行うことに努力する旨の通達がありました。そのため交通局は、業務継続性の観点から大規模地震が発生した場合でも早期に運行再開することが鉄道事業者の責務であると認識し、構造物の耐震性を向上させる、さらなる耐震補強工事を本格化します。

今後も計画的に工事を実施し、平成 40 年度の補強完了に向け、着実に工事進捗を図っていきます。

▼市営地下鉄の路線図



- さらなる耐震補強対象区間
ブルーライン あざみ野駅～戸塚駅間
- 補強対象本数

地下部（開削トンネル中柱）	約 1,400 本
地上部（高架橋の柱、橋梁の橋脚）	約 1,600 本
合計	約 3,000 本

- ブルーライン このうち
- さらなる耐震補強対象区間
- グリーンライン

市営地下鉄の開削トンネル中柱及び高架橋の柱・橋梁の橋脚を鋼板巻立て等により耐震補強します。

これまでの耐震補強

阪神・淡路大震災（平成7年1月17日）を踏まえた国の通達に基づき、平成7年度から15年度までの間にトンネル及び高架橋の損壊を防ぐため約200本の柱の耐震補強工事を実施しました。

さらなる耐震補強の計画概要

東日本大震災後の平成25年の国の通達に基づき、構造物の耐震性能をさらに向上させ、大規模地震が発生した場合でも、早期に運行再開を図るため、約3,000本の柱の補強を行います。

- 実施区間：ブルーラインあざみ野駅から戸塚駅間
 - 実施期間：平成25年度から40年度まで
 - 対象本数：地下部（開削トンネル中柱） 約1,400本
地上部（高架橋の柱、橋梁の橋脚） 約1,600本
合計 約3,000本
- ※戸塚駅から湘南台駅間及びグリーンラインの柱は、平成25年度の耐震診断の結果、所定の耐震性能を満たしていることを確認済みです。
- 概算費用：126億円
 - 補強優先箇所
 - ①早期運行再開のために必要となる車両基地と出入庫線及び本線の高架橋の柱
 - ②緊急輸送路と並走する区間の開削トンネル中柱

補強対象構造物

高架部



高架橋の柱・橋梁の橋脚



地下部



開削トンネル中柱

現在の施工状況

現在、一部区間で工事に着手しておりますが、平成28年8月からより工事を本格化します。

【開削トンネル中柱の耐震補強施工状況（阪東橋駅から吉野町駅間）】



柱の周囲に小形に分割した鋼板を組み立ててモルタルを注入し、柱と鋼板を一体化させることで補強します。



柱下部から順次組み立てて、柱全体の巻き立てを行っています。※平成28年6月撮影

お問合せ先

交通局施設課 施設課長 高木 一行 Tel 045-326-3871